

# 熊本「新老人の会」

2022年 新年号

会報



会 長 小山 和作

事務局長 久米野 安俊

〒861-2234 熊本県上益城郡益城町古閑312-2

TEL/FAX 096-221-5113

発行 2022年1月

No.83



外輪山から望む初日の出（1月1日 宮本 誠治 会員撮影）

## 目次

☆2022年 新年号	表紙	☆サークル活動報告	10
☆巻頭言	1	「城下町を歩く会」	
☆寅年会員の抱負	2～6	「オープンハウスKATARO」	
☆第3回市民公開講座報告	7～8	☆会員文芸	11
☆サークル活動報告	9	☆平和ミュージアム設立準備会報告	12
「戦争を語り継ぐ会」		☆事務局通信 編集後記	13
「童謡・唱歌を歌う会」		☆サークル開催予定	14
		☆広告	裏表紙

## 巻頭言

新しい年を希望と前進の年に

「我々の使命にかけて」

熊本「新老人の会」会長 小山 和作



さしものコロナ感染症もこのところ静かになっています。しかし海外を見

ると依然猛威を振っています。しかもこれまでのものよりさらに感染力が強い新しい株のコロナ感染症が拡大しているようで、我が国は水際作戦を徹底するといっています。油断が必ず市中感染の危険性があります。油断は禁物です。ワクチンの接種も早めに実施し、予防に努めましょう。

昨年、我々熊本「新老人の会」は15年の節目を迎え、今年には16年目に入ります。最初からの古い仲間が次々に帰らぬ人となっています。人にはそれぞれ「いのち」の時間

が定められています。残されたその時間を何のために、誰のために使うのかで、その「いのち」の価値が決まる、とは日野原重明先生の言葉です。この「いのち」の時間を使うことを「命を使う」と書き使命と読むのですね。

さあ我々のこれからの使命は何でしょうか。まずは健康ですね。手足も頭も動いてくれなければ、何の行動もできません。私も昨年、突然の病魔に襲われ心配しましたが、皆さん方の強い応援のおかげで完全に治りました。本当に心からお礼を申し上げます。皆さん方もくれぐれもご自愛ください。自らの健康をしっかりと見守ってください。

次に、自分ばかりでなく周囲の皆さんへの配慮と支援も大事なことです。高齢者に限らずですが、今「孤独」の問題が大きな社会問題です。我々「新老人の会」は高齢者の孤独対策としての役割として、大きな社会貢献をしていると考えています。

しかし、それだけでは普通の老人会と変わりありません。我々は自分たちがこれま

での人生で経験したことを、間違っていたことも併せて次の世代に伝えねばなりません。日野原先生が強調された最大のミッションは世界の平和です。「どんなことがあっても戦争はしてはいけません」、私たちが次の子供や孫に、さらにその子供たちに、残していかなければいけないことです。戦争は忘れた頃に起こるといわれます。戦争を体験したものととって、戦争の話をしたり聞いたりすると、戦慄を覚えます。その戦争を知るものが少なくなってきました。我々「新老人の会」の会員こそ、その数少ない戦争を体験した者の集まった団体です。のちの世代に伝えるための資料館を早く作りたいと念願しています。みんなで決議しましたね。これこそ我々の最後の使命ではないでしょうか。今年には必ず一歩でも前進しましょう。

令和3年12月記



# 寅年生まれの

年男・年女

## 抱負



令和4年



一日一日を豊かな心で  
岩城小夜子(84)

毎日、夕方歩いている。今日も夕焼けが西の空を染めている。夕焼けが醒めた空に星が一つ生まれキラキラと輝いている。一日の中で黄昏時が好きです。今年で84歳、人生の黄昏時です。他に何もする事も無い、人から必要とされている実感も無い。体力も出来ない事が増えてゆく、年を取ると状況がどんどん変わります。それでも毎日、生き生きと日々を送っている素敵な方を見かけます。新老人の会の皆様も私の見習いたい方ばかりです。新老人の会では俳句に入会しています。コロナ禍の中、代表の佐藤武敬様の提案で、毎月葉書で投句を続け、籠もる日々を俳句は乗り越える力となりました。お世話下さった方に感謝しています。



子供たちの幸せを願う  
こども家庭庁の創設に期待  
尾里一清(84)

今年はどうな年になるのでしょうか！明日の事は分かりません。今、自分のそばに有るものに感謝して、今年も一日一日を豊かな心で生きたいと思っています。世界が平和で、皆様の一日が良い日であります様に、今日も一番星に祈ります。

昨年、県外に住む女子卒園生の結婚式があった。ベテラン職員夫妻が両親役を勤めた。私達夫婦は、年齢からして今回は来賓で列席した。各々の上司、同僚、友人等に祝福して頂き、時節柄大パーティーとはいかなかったが、アットホーム的で心温まる雰囲気であった。夫である彼も好青年であるが、何より彼女が夫のご両親に気に入って貰えている様子が伺えて、私達には何とも言えないうれしさであった。過去には私達夫婦も県内外の幾組もの卒園生の晴れ舞台に様々な役割で立ち会って来た。寝食苦楽を共にした彼ら彼女らがこんな素敵なパートナーに

出会えたのかと、その健気な生き方に幾度、感涙にむせたことか。多大な幸せに共にひたる事が出来たことか。只々彼ら彼女らに感謝あるのみ。しかしながらみんなが生まれた時から幸せであったとは言いがたい辛さを私達も共有している。不本意ながらもやむを得ず、成育途上で自分の人生を他人の手に委ねなければならなかったからである。児童福祉法に、子どもの幸せを守る最後の砦と言われる社会的養護(里親・乳児院・児童養護施設・母子自立支援施設等々)という制度がある。それでも全国的に子どもの受難は続いている。手元のアルバムを開くと、園内外の日常生活、四季折々の様々な行事等の写真から子どもたちの喜々とした笑顔が飛び出し、賑やかなおしゃべりの声が聞こえて来る。あの彼もこの彼女も社会に巣立って幸せになっている。だって自立して堅実な納税者となり、立派な家庭を持っているんだもの、と感慨に耽ける至福のひと時である。そう、子どもには変えられる力がある。そう確信している。



### 丁寧生きる

佐藤星光 (84)

幼い日友達の家へ遊びに行った時、部屋天井から張り子の虎が吊されているのを見て驚いた事が鮮明に思い出されます。「虎は千里行って千里帰る」と言われますが、現在の私は近くのスーパーを往復するのに千五百歩歩くのがやっとです。なるべく段差が無く道幅の狭い所をゆっくり渡るようにしています。台所の鍋を焦がさないように、その他廊下の電灯を消し忘れないように、耳の遠くなった主人から何度も聞き返されないように気をつけています。楽しい記憶としては、30年位前の日本野鳥の会に入会した頃の活動があります。外出する機会が減ってしまった現在、その頃使った双眼鏡を取り出し、マンシヨンの庭に来る鳥、春の桜、秋の紅葉を見て心を和ませています。老いが進み、残された時間は僅かですが、自然を愛しつつ丁寧に生き、子供や孫のために、この地球から戦争、飢餓、温暖化、疫病が無くなり、安心して暮らせる

ように祈っております。



### ストレスと病気

上熊須 勇 (84)

新年おめでとうございます。

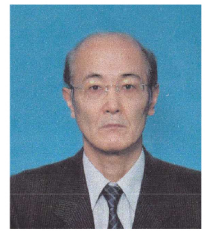
若い頃、デパートの食堂部で働いて居りました。デパートとフランチャイズ店の両方をしていましたので、人事、労務管理、売り上げ等に気を使い過ぎて、遂に病気を引き起こしてしまつたのです。その後はマイペースで仕事に臨み何とか定年迄続けることが出来ました。退職後は、のんびりと散歩や、好きな囲碁等をして過ごしています。体の方も元気で、あのようになんかんだ事が、うそのように忘れてしまいました。家庭の中でも、妻や子供達との考え方の違いや、時にはイヤなことかもしれませんが、なるべく相手の身になって、一呼吸おいて、穏やかな気持ちで接すると良いようです。過度のストレスをさけて、日々楽しく過ごす事が何よりの病気予防だと思っております。

### 七回目の寅年を迎えて

栗原明子 (84)

自分の人生を振り返って見ると八十四年間の主婦業として生きて来ましたが「光陰矢の如し」とか申します通り、何にも残っていない平凡な日々であったかと思はれます。幸い二人の子供に恵まれ、子供の成長を楽しみ乍ら地域の発展には人並に尽力したつもりです。現在は老人会の一員として頑張っております。

唯一公に云える事は昭和五十九年から二十数年間、先輩の鬼塚和子さんや潮谷義子さん達と共にボランティア(心の電話)として活動し微力乍ら社会に貢献した事かと思えます。此の事に携わった方々のおかげで社会勉強の向上となり有り難く思っております。長い人生では山あり谷ありの中、交通事故に遭い後遺症が残り不自由の身になり主人に支えられ乍らの生活ですが、回りの人々には、極力迷惑をかけない様に心がけて、余生を送りたいと肝に命じております。



## 日野原先生の平和への 想いに学ぶ

高本謙一(72)

私にとって「新老人の会」は、小山先生はじめ皆様方にお世話になり、親しくさせて頂く有り難い場所です。さらに貴重な学びと経験をさせて頂く大切な場でもあります。安藤先生の「戦争を語り継ぐ会」では、貴重なお話を聴き使います。辛い想いを抱えながら、懸命に生きてこられた方々が、ご家族の最期を思い起こし、子や孫には同じ想いをさせてはならないというお気持ちで、お話し頂いたものだと思われました。また先の大戦では、子供たちが広島・長崎・沖縄・ヨーロッパの強制収容所で犠牲になり、さらに今も世界各地で、貧困に苦しみ、紛争の犠牲になる子供たちの事を学びました。国際連合は、国連憲章で国家の武力行使を違法と規定し、違法な武力行使に対して、強制行動で臨む集団安全保障体制をとる平和のための国際機関です。さらに内戦や紛争によるジェノサ

イドや人権抑圧に対して国連は、救命のための武力介入を行い、国連難民高等弁務官事務所や市民NGOは人道支援を行います。市民組織ICANは国際社会と共に核兵器禁止条約の発効に寄与しました。真の平和には、戦争がないだけでは無く、貧困・人権侵害・環境問題などの解決が必要だとして、国連と国際社会は、持続可能な開発目標SDGsを定め、平和な世界の実現を目指しています。

日野原先生の平和への想いは、今尚続く世界の子どもたちの貧困・人権抑圧・犠牲に対する憤りであり、戦争を語り継ぎ、その教訓を世界の真の平和のために活かすことが大切である、と考えておられたのではないかと思います。「語り継ぐ会」を通して、平和について更に学んで行きたいと思えます。「新老人の会」の皆様方には、コロナ禍の時節柄、益々のご健勝をご祈念しますと共に、今後ともご指導宜しく申し上げます。



## いただいた命 感謝の心で大切に生きる

中嶋憲正(72)

新年明けましておめでとうございます。大好きな寅年であります。すばらしい一年であることを心から祈っております。さて年頭に当たっての抱負であります。

一つには何といたっても「健康」であります。昨年の大先輩のご指導をいただき体重が61.0kgと青年時代の体型を取り戻すことができました。今年は弱点の筋力の強化の為、自転車運動、水中歩行と着実に実行することあります。二つには、私の職業の原点かつ大好きな農業、昨年に新たに熊本の赤牛の繁殖スタート致しましたが、その充実前進に頑張ります。三つには、大いに社会参加することあります。これまでお世話になった皆様に、感謝の心で、出来る限り多くの行事に参加し、新たな自分の発見に努めます。

今日寅年の年男として原稿の依頼をいただき、新年に向かっている思いを、改めて確認することができ、大変ありがたく思っております。結びに本年一年が素晴らしい一年でありますこと、そして皆様のご健康、ご多幸を祈念申し上げます。私の年頭の抱負とさせていただきます。



## 平穏な日々感謝

西本日登美(84)

今年寅年、私七回目の干支に当たる。生まれて間もなく第二次大戦が始まり何も知らないまま小学入学となる。一里の道を往復した。この年昭和20年である。新しいピアノで校歌を聞いたのに、夏休み前後に爆弾で学校が焼けた。勿論ピアノも。勉強も出来なくなった。分散教育といって各家庭に人数分かれて巡回した。先生も分担して見て廻られた。やがて旧兵舎に移り床も穴だらけで裸足の足はいつもすり傷だった。卒業もここでして中は電車以南へ。そして高校は又電車で熊本市内へ通った。今は女性も大学へ行くのは当然だが、私の頃は女は家庭に入るのが一番となっていて、洋裁・料理・タイプライターの学校を追加した。暫くその方面で働いていたが、縁あって大阪へ行く事になった。相手の方と結婚早々私もタイピストとして共稼ぎが始まった。

人生山あり谷ありで、良人の会社が奈良へ移る事になり、辞めて京都の会社に移った。私は毎日戦争の様に仕事、買物、台所と初めての暮らしに追われた。やがて自分の会社を良人が立ち上げたので、私は裏方でバイクで京都市内を走った。その中、良人が病氣し病院巡り、会社、子育て、と戦いの日々。でも沢山の良い人にも出会い、今日の平穏な生活が得られました。母一人になったので故郷へUターンした。もう十七年位になる。母も良人も亡くなり、今は一人で自由時間を満喫、幸せです。



## 古希からの楽しみ

前田誠子(72)

七十歳を迎えての日々は、一週間の行事を自分なりに決めて行動することになっています。家事をする日、庭の草取りをする日、週二回の体操教室、親しい友達とのランチ、このコロナ禍で始めたト

ルペイントを作成する日。その行程が細やかで緻密なほど、喜びは格別なもので、作品が出来上ったときの満足感には私にとつて何よりの癒しです。これからも健康に注意して、前向きに過ごしていけたらと思っております。



## 感謝

松本壽子(72)

明けましておめでとございます。

一日も早くコロナが終息し以前のような生活に戻れることを願っています。私は十年前、プライザー病(手首の舟状骨が壊死する)により術後に右手を上げることも出来なくなりました。右手首や5本の指は動かなくなり、左手だけでは日常生活が困難になりました。一人では何も出来ず、友人やご近所さんに助けを求め、ご近所さんにはゴミ出しや落ち葉掃除をお願いし、現在も続いています。

友人には調理、手足の爪切り等々をしてもらい、他の友人も何かと気遣ってくれ、手が不自由でも使い安い包丁を探してくれるなど感謝しかありません。縁あって、確かな技術を持ち、信頼出来る理学療法士に出会い、リハビリを受けることが出来ました。

手術から3年目に指が動くようになり、まだ少しは痛みがありますが、日常生活や仕事が出来るまでに改善しています。

以前の私は、どんなに困っていても人に頼ることが苦手で、何とか一人でやっていた。病気を経験することで、人は一人では何も出来ない。生きているのは多くの人の支えが必要、生かされているということに改めて気付かされました。困った時には、素直に「声を出すこと」だと思います。「超高齢社会」の日本です。ご近所さんや友人との交流・コミュニケーションに心がけ、元気で心豊かに笑顔の日々「感謝する心」を忘れずに今年も過ごしたいと思っています。



## 平和を願う老人

松本 守 (84)

「マモル、マモル。何処におつとか。」

祖母の甲高い声が響いた。私はその時、川で魚釣りを夢中で楽しんでいた。祖母は6歳の私を見つけ「はよ逃げんかい。」と叫ぶ。上空を見上げると、グラマンが水俣チツソ工場を爆撃していた。パイロットの顔が見えるほどの低空飛行であった。「空襲警報が出とつとに、この子は。」と言う祖母に手を引かれて、防空壕に逃げ込んだ。子供ながらに怖いと感じた記憶は、今でも鮮明に覚えています。あれから77年。時代は大変なスピードで変化した。太くて重いシヨルダーフォンからポケットベル。小銭が無くても電話が出来るテレカにも当時は衝撃を受けたものだ。そして今は自分よりはるかに賢いスマートフォン。初めて行く場所も、スマホが連れて行ってくれる。また、一人暮

らしの私は、料理が大の苦手。しかし、カレーの作り方も手取り足取り教えてくれる。スマホはもはや魔法使いか、と摩訶不思議な気分になるもので、もう手放せない相棒となっている。なかなか使いたくないが、生きて行くためには、挑戦しなければ取り残されてしまう。その為に必死で学習しています。昨年友人家族と金峰山に登りました。猿すべりの登山道に「2回目」の挑戦。40分かけて登頂しました。途中、下山する方々との挨拶や触れ合いに、心暖まる幸甚さを感じて、山登りは傾倒になりそうです。頂上で食べるおむすびは格別。私以外の登山者も皆、笑顔のいい表情で、「贅沢な時間だな。」と思うと同時に、平和な日本だから出来ることなのだと感じました。この平和がいっまでも続きますように。昨年はコロナで始まり、オミクロンで終わった。今年こそは、素晴らしい年でありますよう願う私です。新老人の会の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念致します。

### 第3回市民公開講座報告

佐藤 武敬(87)

12月6日(月) 13時開場、13時30分開演  
でパレアホールにて開催された。

入場者は会員49名、一般100名であった。  
事務局長からの案内で、皆が座席を一つずつ開けて座ったので、丁度良い配席状態となった。



進行役の二塚信会員の開会の言葉で始まり、出演者のチャーリー永谷さんは二塚先生の濟々鬢の先輩であると紹介された。次いで小山

会長の挨拶に入った。熊本「新老人の会」の紹介の後、チャーリー永谷さんは日米の架け橋として金子堅太郎賞を受賞された世界的な音楽家であること、三浦恭子先生は山中伸弥先生の下で研究された後、2017年から熊大にて世界的な研究を続けておられることが紹介された。

この後本日のメインである熊本大学大学院三浦恭子准教授による講演「長寿の秘密に迫る〜超長寿ネズミの実験から〜」に入った。



話は1老化とは、2ヒトの長寿者研究、

3ハダカデバネズミの研究と進んだ。

先生は父親が熊本出身だが、ご本人は神戸の出身で、兵庫高校、

奈良女子大、京都大学大学院の経歴にも拘らず、関西弁が出ず、明快な口調でスライドを使って平易に解説された。素人として最も興味を引いたのは、ハダカデバネズミの階級社会の項で、女王、王、兵隊、ワーカーの役割分担や繁殖、抑制等、人間社会の状況を思い起しつつ聴いた。

アプリカでは害獣扱いされ、老化が遅くて、最大寿命37年というハダカデバネズミが約900匹熊大で飼育されている由。世話も大変と思う。

次にチャーリー永谷さんの「カントリーミュージック」に入った。

阿蘇アスペクタでのコンサートを終了された現在でも引っぱりだこの人気であり、今回の出演に当たっても、前日の霞が関ビル最上階の東海大学倶楽部や一橋大学如水会館でのイベントを終えて、当日朝の便で帰熊されたばかりであった。

86歳とは思えない若い声で「テネシーワルツ」や「ユーアーマイサンシャイン」ほか数曲を披露して頂いたが、聴衆も引き込まれて手拍子をする状況であった。

曲の合間のトークではチャーリーさんの20歳で音楽と出会ってからの歴史がわかったが、一番面白かったのはアメリカの軍隊基地での米兵(兵士、下士官、将校)の熱狂ぶりであった。





楽しい時間はあっという間に過ぎてしま  
い、「願わくば三浦先生の研究が我々の生き  
ている間に実用化してほしい。」との思いを  
こめた山内副会長の閉会の辞で締め括られ、  
世界的な研究者と世界的なミュージシャン  
に出演して頂いたイベントは無事幕を閉じ  
た。

出席者から頂いたアンケートの一部を次  
に紹介する。

### ① 講演について

・この研究は私達高齢者には間に合わない  
と思いますが、子や孫の時代には日常的な  
治療として実現することと思います。

・身近な熊大で貴重な希望がもてる研究が  
行われていることを興味深く思いました。

・お手伝いできることがあれば、何かやり  
たいという気になりました。

・遠大なテーマに感服。どうぞお元気にご  
活躍を！

・言葉がはつきりしていて、しかも難しい  
研究内容をわかり易く紹介され、感銘を受  
けました。人の年齢のメカニズムが解った  
気がします。

・実生活の中で寿命・長寿のあり方を具体  
的に提案されることを期待していたが、熱

意には感謝。

・人の寿命に関して脳と腸がコントロール  
していると聞き及んでいるが、ネズミの研  
究でもしつかりと実証されていると感じま  
した。

・先生の研究で一番に認知症の完治薬が完  
成することを切に願っています。

・ますますのご健勝と若者をお育て下さい  
ますよう祈念いたします。

・介護施設に勤めている身として、老化や  
病氣予防についてさらに知識を身に付けて  
いこうと思う機会になりました。

### ② コンサートについて

・永谷さんのお元気なお声とお姿を拝見し  
て、元気が出ました。益々のご活躍をお祈  
り致します。

・久々に生演奏が聴けて細胞に響きました。  
・年齢とは???と思いました。

・テネシーワルツなど懐かしい曲よかった。  
嬉しかった。でも間の話が長過ぎた？感が。

・チャャーリーさんとは初めてお会いしたが、  
年齢が同年齢で、人間的にも親しみ易く、  
ずーっと友人だった気がする。これまで演

奏一筋で厳しい社会を渡って来られたので  
はないか。しかしそんな感じは一切出さず、

明るく陽気に歌を歌い、我々に話しかけて  
くれる素晴らしい人間性を忘れることはな  
い。ガンバレチャャーリー永谷先生。

・人間の信頼、友情素晴らしいですね。初  
めてお聞きし、人として学ばなくてはと、  
この年齢になっても、聞き入る事が一杯あ  
りました。

・ミュージックで一生を愉しまれ。世界的  
に優れておられるのは、日本人の誇りです。

### ③ 「新老人の会」の活動について

・貴重な講演と楽しい演奏有難うございま  
した。これからの行事も期待しています。

・鉛筆は消毒してほしかった。

・会場運営など大変だったでしょう！特に  
「お花」・紅葉のみみじ、すすきなど季節感  
があり最高でした。

・公演の文章が頂けたら幸いです。  
・入会しておりませんが、イベントの度に  
吉開さんから連絡が届き有難いです。

・日野原先生の会が熊本にもあり、75歳に  
なったら加入しようと思いました。

・何時か書道家の方の講演も多くの方に聴  
いて頂けたらと思います。

・北部支部で原口さんのお陰で音楽会を開  
いて頂き、楽しい会でした。

## 戦争を語り継ぐ会

安藤富士記(91)

コロナ禍でほぼ1年ぶりに再開された



10月例会では北朝鮮で敗戦を迎えた方の話を聞きました。

12月は、太平洋戦争開戦の月に因んで、参加者全員トーク「12月8日を考える」という形で行ないました。

この日の参加者18

名、戦争体験者7名中、開戦の日の臨時ニュースの記憶があるのは2名だけ、軍隊の体験者0、父親の戦死2名、空襲で家焼失2名、学童疎開体験者2名でした。

話題は、食料が乏しくいつも空腹を抱えていた。勉強より防空壕掘りや畑

作業ばかり、音楽は軍歌、分散教育でお寺で勉強。中学では厳しい軍事教練、工場動員などが語られました。戦争体験のない世代からは、再び戦争の道を歩み始めるのではないかと危惧される、それは戦争の総括がきちんとなされていないからだと指摘。若者は戦争の話に魅力を感じない、国際情勢や文化などの話題から、平和・希望の見える学習が必要との意見。宣戦の大詔の現物を持参した人からは「あの戦争はアジア解放の正義の戦いだ」と言う人達もいるが、この詔勅のどこにもそのような記述はない、との厳しい批判もありました。

1月は高校生の「語り部」が登場予定。

### 童謡・唱歌を歌う会

佐藤武敬(87)

12月4日(土)13時30分からパレア音楽室1で開かれました。1年10カ月ぶりになります。再開に当たって世話人の方のご苦労は大変だったでしょうが、中でも限定20名の参加者確保にエネルギーを使われたと思います。集まってからも、1メートル間隔や30分おきの換気等の気配りをされました。肩甲骨ほぐしの柔軟体操の後、歌に入り

ましたが、先ずは「新老人の会」に關係した4曲、次いで「紅葉」から「きよしこの夜」まで8曲歌いました。この会の特徴は単に歌を歌うだけではなく、それぞれの歌の由来まで解説してもらえます。

今回特に印象に残ったのは「輝くいのち」です。作曲の岩城浩一は全国的に有名ですが、歌唱指導の堀先生の母校である玉名高校の校歌も作曲されたとのこと。また作詞の小山和作(我がらが会長)によれば、時間が1番は朝、2番は昼、3番は晩であり、場所が1番は自然の中、2番は職場、3番は



家庭という構成になっているとのことです。こういう事柄が判ると、歌い方が随分変わってくる筈です。

今後の開催予定は1月8日(土)、2月5日(土)、3月5日(土)とになっています。また一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

## 第12回「城下町を歩く会・新町界限」に参加して



中島和夫(73)

11月21日(日)市電洗馬橋電停狸像前小広場に集合、出発式の後、加藤清正時代から明治までの史跡巡りをしました。

加藤清正が大坂や名古屋から連れて来た職人や商人を定住させて「新町」を形成した。無くなってしまった旧町名からそこに住む人たちの職業が解り、町が栄えていたことがよく解りました。

新馬借町では、甲斐宗運ゆかりの「正教寺」に立ち寄り、ご住職様(18代目)から詳しいお話を伺いました。塩屋町では、熊本で初めて活版刷りの新聞「白川新聞」が発行されたこと、文林堂では熊本で初めて万年筆を売り出して人気を博したことで、九州で初めて開業した歯科医院の家なども遺っていました。また、「どんぶり池」の湧水池等々初めて知ることはかりでした。他に藩政期のお客屋、札の辻、清爽園、電信町、御旅所、川上彦斎、吉田松花堂、高麗門の裏話等々2時間半の楽しい散策でした。



一新幼稚園 藩政期は藩の迎賓館(御客屋)、維新後は実学党系の学校「会輔堂」、明治5年の明治天皇行幸の際は行在所となる。明治7年には師範学校となり、そのあとは一新小学校となり、大正8年から一新幼稚園となるなど熊本近代化の象徴的な場所となる。

明けましておめでとぅございませう。KATAROの活動報告をします。

**オープンハウス**  
**KATARO の現状報告**  
 代表 瀧口 巖(70)

11月、井芹邸での活動風景

・7月の活動：井芹邸において地区を3つ(帯山、中央区、北区)に分け、水曜日を中心に3回実施。主にフリーマーケットで10人程度の参加としました。益城町ではお寺の住職を招いて「仏様の話と終活について」の講話をお願いしました。参加者20人程度でした。

・8月〜9月の活動：井芹邸・益城町共に休み

・10月の活動：10月についてはオープンハウスKATAROの設立5周年に当たるので、井芹邸での参加者の皆さんに記念品と感謝の言葉のカードを差し上げました。活動は7月同様3回実施しました。さらにスタップ研修として小山先生のミニ講話「5周年に当たり」をお願いし13名の参加がありました。益城町ではライヤーマニコソナート「やすらぎの調べ」を実施し19名の参加でした。

・11月の活動：井芹邸では10月同様に3回実施して、少し参加者を増やしました。また5周年記念としてこれまでの歴史を写真でまとめ、井芹邸の壁に展示して皆さんに見て頂くようにしました。益城町では「心と身体の健康体操・ボディートーク」と題して参加者(20名)に楽しんで頂きました。

・12月の活動：井芹邸では少しまとめで2回(計29名参加)にして実施しました。益城町は休みにしました。令和4年についてはスタップの皆さんと色々工夫しながら新しいものを取り入れていく予定です。今年もよろしくお願ひいたします。

会 員 文 芸

川柳十二月例会 古閑萬風選

青磁よりよほど確かな庶民の目 森上裕子

たつぷりと食欲の秋盛るサラダ 江藤恵子

さまざまな愛に恵まれ生きる日々

十時貴子

食べたいと痩せたい気持ち内輪揉め

山口玲子

耐える意志あれば深まる夫婦愛

西村文夫

愛犬が繋ぐ絆の老夫婦

加藤美寧

優しさを呉れる娘に服を買う

高橋純子

愛してる昔確かに聞きました

久米野郁子

着古しに愛着染みて手放せぬ

生森美代子

ご褒美は人と学びの出会いかも

西本ヒトミ



俳句十二月例会 山澄陽子選

ホトトギス同人

冬ざれや解体されし古アパート 佐藤武敬

老友の元気な電話冬ぬくし //

姉逝きて柀花をこぼしけり 岩城小夜子

山眠る姉と唄ひし童歌 //

山眠る途切れとぎれに溪の音 澤田安月子

久に訪ふ子の住む町へ小六月 //

蝕明けの冬の満月西空に 山内良一

山眠る面影ゆらぐ亡き親友の とも //

柿火花豊作山に捨て置きし 小林優子

山眠り白い草食む白馬かな //

ぬる爛でちびりちびりと冬温し 木村純子

山眠る里は湯けむり長閑なり //

極月や工事現場の深夜の灯 河原畑宣子

路地裏のこぼるるばかり実南天 //

金峰山きんぼうの深き眠りや年明くる 平川礁舎

短日の行かねばならぬ用一つ //

田舎道焚火の跡に霜柱 中川一九

大相撲まけても愛し郷土力士 //

朝焼けの静かなりけり山眠る 小山和作

荃漬けのすつぱくなりし老二人 //

短歌 会員 歌人詠

中川 千鶴

歳重ね脳力如何にと開きたる

熟語ドリルに四苦八苦

病院に一人行かすは危ふしと

嫁は貴重な時間を潰し

藤井 末津子

阿蘇山の噴火の煙氷るがに

冷える元旦朝日が昇る

大鉢の梅の木今年も膨みて

白き梅花は目前に咲く

# くまもと戦争と平和のミュージアム 設立準備会の報告

設立準備会代表 小山和作  
熊本「新老人の会」会長



小山代表あいさつ

名称を昇格させて進むことになりました。

その第1回の会議で、代表は私が務め、前の設立事務局会の時の副代表であった安藤富士記さんと、同じく上村真理子さん(会員)の二人に副代表になって頂き、新たに事務局長に本会の監査役の中川久さんに、

熊本「新老人の会」(以下本会)にとつて悲願ともいえる戦争と平和のミュージアム設立は、コロナの邪魔を受けて頓挫しながらも、どうか設立準備会と

経理の面で大事な要の会計担当に同じく本会の監査役の佐藤武敬さんにと、「言い出しっぺ」の

「新老人の会」で役員を構成しました。これまでの事務局長の高谷和生さんは熊本の戦争や戦跡に大変詳しいので、勤務のお仕事の都合で事務局長は引かれましたが実質上は任務を続けて頂くことにします。他の各種団体の方々



中川新事務局長

は今まで通りに委員として協議に参加して頂きます。また県や市からオプザーバーとしての出席も頂くこと

会議風景



になりました。この役員布陣からご覧頂けるように「新老人の会」が背水の陣を敷いたものです。熊本「新老人の会」は全会員一丸となつてこの設立に向けて命を懸けたいと考えます。

これからの仕事は、この会の法人化(一般社団法人を考えています)の問題と、県下一円から設立賛同者を募り、主要な肩書きの方に呼びかけ人になっていただこうと考えています。実は賛同者は着実に増えています。会員の皆様からお勧めいただきます。急速に第6波として襲いかかってきます。しかし私たちには時間がありません。悠長にはおられません。このミュージアムは「新老人の会」のみなさんで作ったんだよと後世に言い伝えるものにしようではありませんか。会員の皆さんの心からのご協力を切に願うものです。

上村副代表閉会あいさつ



## 事務局通信

### 【新入会員紹介】

古田 紀子 様 (81) 北区植木町

### 【訃報】

鬼塚 和子 様

令和3年12月26日ご逝去 享年92歳

百崎 末雄 様

令和4年1月6日ご逝去 享年81歳

林 康治 様

令和4年1月23日ご逝去 享年92歳

謹んでご冥福を

お祈りいたします 合掌

### 編集委員会より

明けまして

おめでとぅういぢごます

巻頭言に示されたとおり「希望と前進の年」にしたいものです。会報は昨年コロナ禍のために3回発行に終わりました。今年はずいぶん予定通り4回発行したいものです。

★毎年の新年号では、その年の干支の会員さんに新年の抱負を書いて戴いていますが、中々原稿が戴けません。今年、寅年生れの方は11名、その全員から原稿を戴きました。熊本「新老人の会」幸先良し、という感じです。有難うございました。夫々の方の思いを読み取って下さい。

### ★会報を支えているお二人に感謝

会報がカラーになって、好評を頂いていますが、各ページを編集委員が受け持つパソコンで仕上げる作業をしています。そのパソコンの腕前は？ それぞれのパソコン歴も違いますし、持っているパソコンの機種も違います。会報が出来るまでに委員会を4〜5回開き夫々の進行状況を報告し、困ったことの相談をしています。写真やカットの入れ方が分からない、タイトルのサイズや字体をどうするか、この漢字には振り仮名を付けたら等々…。

最終的には各自が作成した原稿をメールで宮本誠治さんのところへ集中するので、それが中々うまく行かず、家まで足を運んでもらうことなどもありました。そのバラバラの原稿を一つの形にまとめて印刷所へ送るまでの仕事を一手に引き受けても

らっているのが宮本さんです。昨年発行した会報特集号、年表も宮本さんなしでは出来なかったでしょう。

もう一人毎号の表紙を作ってもらっているのが牛嶋祐樹さんです。カラーになってからの表紙は全部牛嶋さんの作成です。表紙には目次が入ります。これが確定するのは最後の編集会議直前ですが、安藤が目次の原稿と写真を送ると、即日表紙に仕上げで送り返してもらっています。

お二人ともまだ現職で仕事をしている多忙な中で、私たちの会報の仕上げをして頂いています。感謝 感謝！

### 原稿募集

会報は会員みんなのものです。

エッセイ 詩 肥後狂句 紀行文

読書感想・紹介 写真 絵手紙

会に対するご意見・要望などなど

※原稿は1200字まで写真もぜひお願いします。

事務局か編集委員へ託してください。

### 編集委員

安藤富士記 久米野安俊 佐藤武敬

津川光星 中川 久 平川 寛

編集協力 牛嶋祐樹さん 宮本誠治さん

☆ 熊本「新老人の会」サークル開催予定 ☆

サークル名	会場・時間	2月	3月	4月	5月	代表連絡先
カラオケ同好会	銀座通り水田ビル 地下1階「プーール」 13時～16時	「第2・第3水曜日」 月2回の分散開催予定 参加人数などを調整中				山内 良一 323-1253
戦争を語り継ぐ会	ウェルパルクまもと 14時～16時	中止	24日 (木)	17日 (日)	26日 (木)	安藤富士記 339-2537
童謡・唱歌を歌う会	県民交流館パレア 10階 音楽室1 13時～16時	中止	5日 (土)	9日 (土)	7日 (土)	牛嶋 邦子 090-3664-1851
健康麻雀クラブ	銀座通り竹葉ビル3階 雀荘「憩」 13時～16時	毎月「第4水曜日」				津川 光星 090-8298-0101
俳句教室 「鶴亀句会」	県民交流館パレア 会議室 10時～12時	18日 (金)	18日 (金)	15日 (金)	20日 (金)	佐藤 武敬 364-0612
川柳教室	県民交流館パレア 会議室 13時～15時30分	毎月第4火曜日				山口玲子 080-1707-5024
スポーツ吹き矢 クラブ	ウェルパルクまもと 10時～13時	「ウェルパルクまもと」が 使用不可です。 使用可能になるまで休止します。				原口 祐子 273-1788
オープンハウス 「KATARO」	第1・第2・第3水曜日 13時～15時 井芹邸	参加ご希望の方は 5日前までにお電話下さい				瀧口 巖 090-3413-4957
城下町を歩く会	5月実施予定 (日時未定)	「新屋敷・大井手」を歩く				平川 寛 367-1655

グランドゴルフ	お世話して下さる方が必要です。お世話頂けそうな方は、事務局迄 お申し出頂きたいです。宜しく願い致します。 事務局 096-221-5113 久米野携帯 090-4999-0039					
---------	--	--	--	--	--	--

※日時の変更の場合もあります。経費が必要な場合もあります。詳しいことは、各サークルの代表にお尋ね下さい。

※新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。会場使用不可または参加人数制限等の理由で実施出来なかったり、やむを得ず中止したサークルもあります。ご理解下さい。